

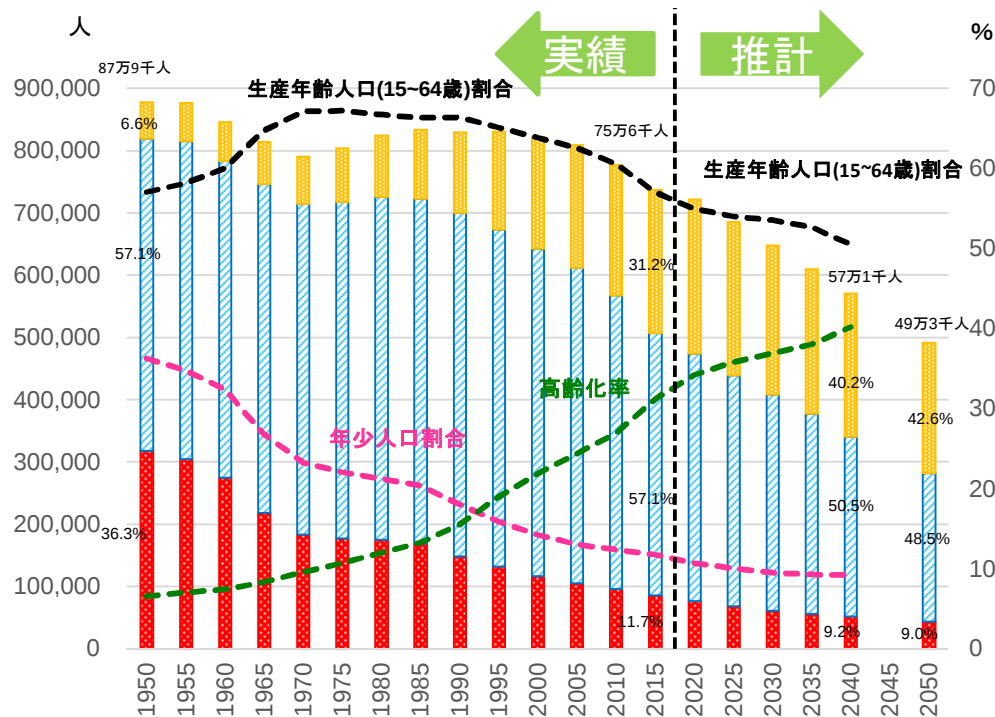
徳島県の少子化の現状について

1 将来の人口見通し

人口構造の推移と見通し

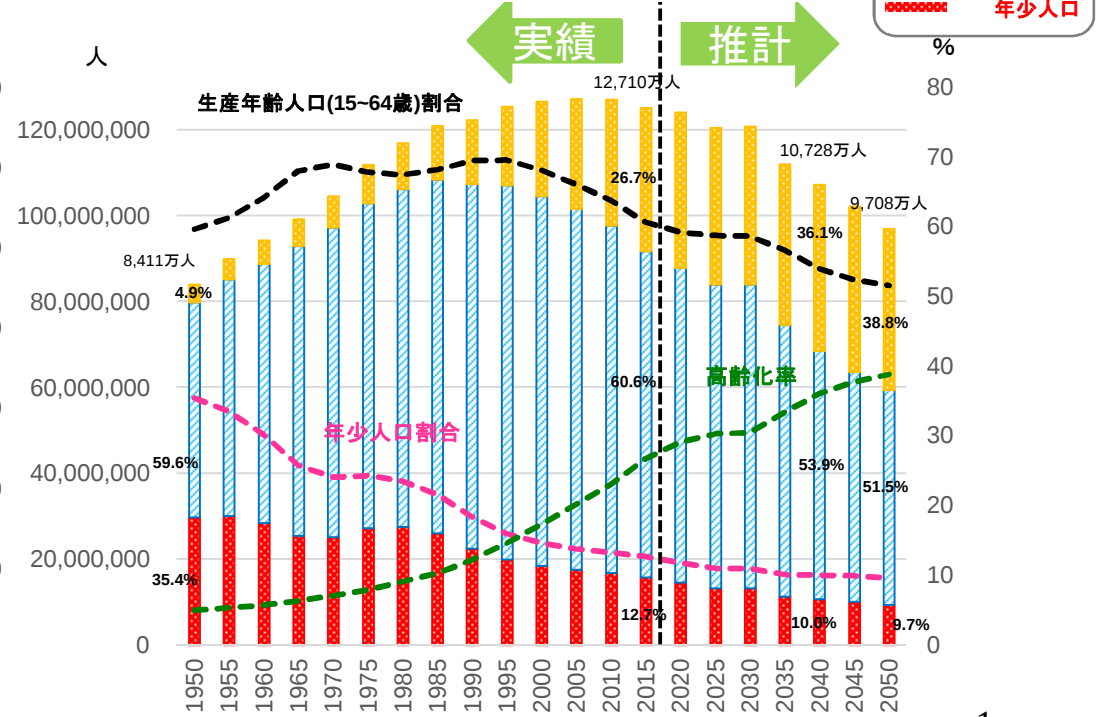
- 本県の総人口は今後も減少を続け、2040年には、57万1千人となる見通し。
- 本県の人口構造は大きく変化し、年少人口(0～14歳)の総人口に占める割合は、1950年の36.3%から2040年には9.2%、同じく生産年齢人口(15～64歳)は57.1%から50.5%まで低下する。
- また、老年人口(65歳以上)は2020年頃にピークを迎えた後減少に転じるが、総人口に占める割合は上昇を続け、2040年は40.2%となる。

徳島県における人口推移と人口推計



出典：総務省「国勢調査」

全国における人口推移と人口推計

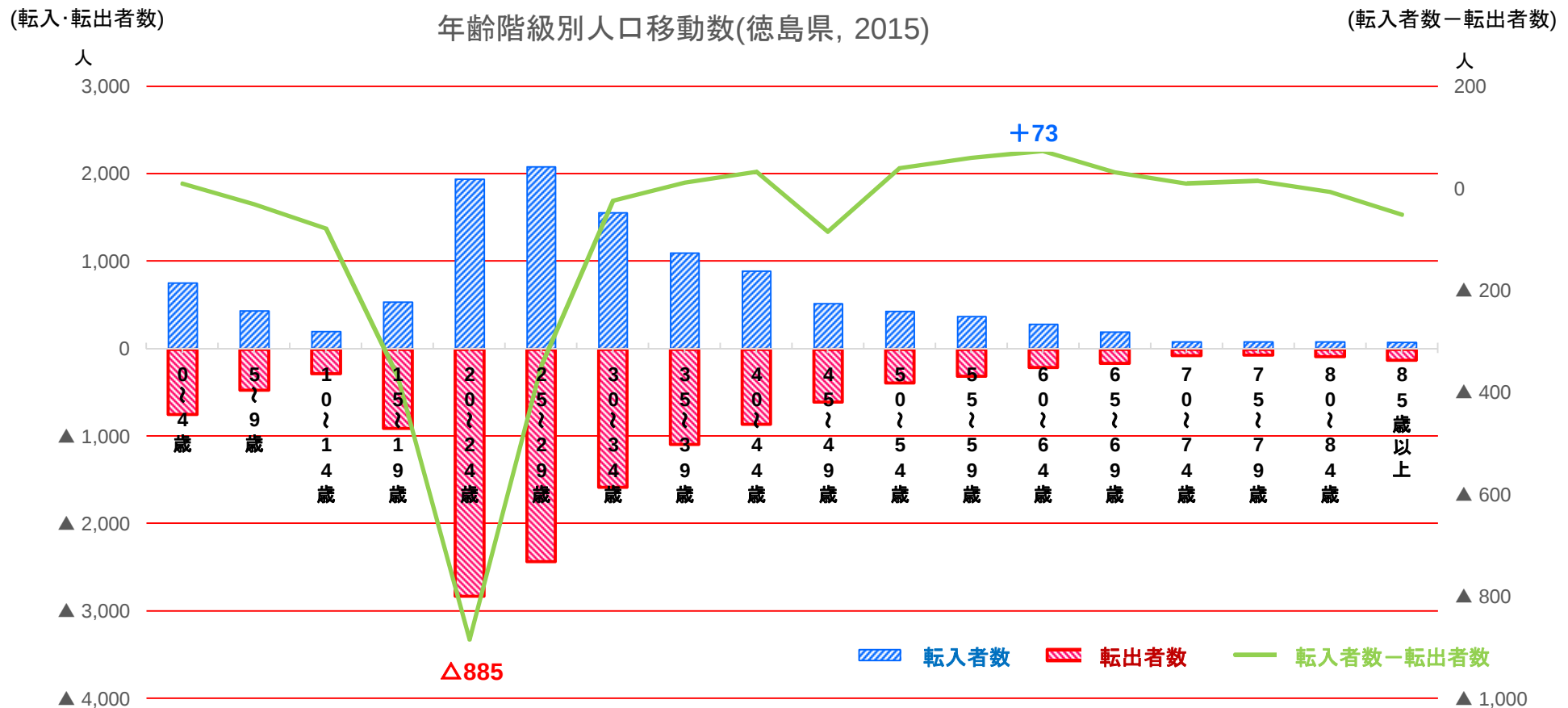


出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来地域別推計人口」「日本の将来推計人口」

2 人口流出の現状

年齢階級別人口移動

- 2015年では、人口流入出者数(転入者数－転出者数)が20歳～24歳で▲885人と最も多く、全体の人口流出数(▲1,598人)の、50%以上がこの20歳～24歳の間に集中している。
- 2015年の20～24歳の女性の人口流入出数(▲510人)と男性の人口流出数(▲375人)を比較すると、これから出産適齢期をむかえる年代の女性人口は男性の約1.4倍流出している。



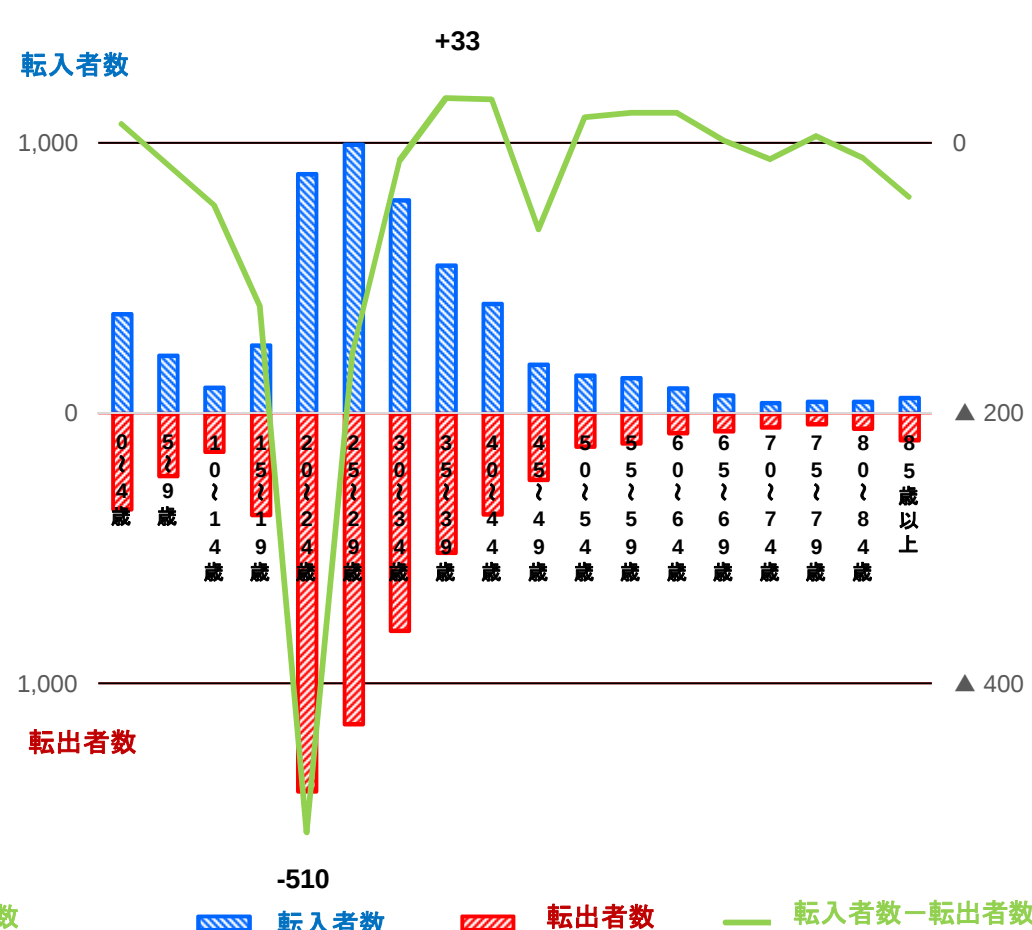
出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」徳島県統計戦略課「人口移動調査」

年齢階級別人口移動数(徳島県女性, 2015)

(転入者数－転出者数)

人

- 200



▲ 600

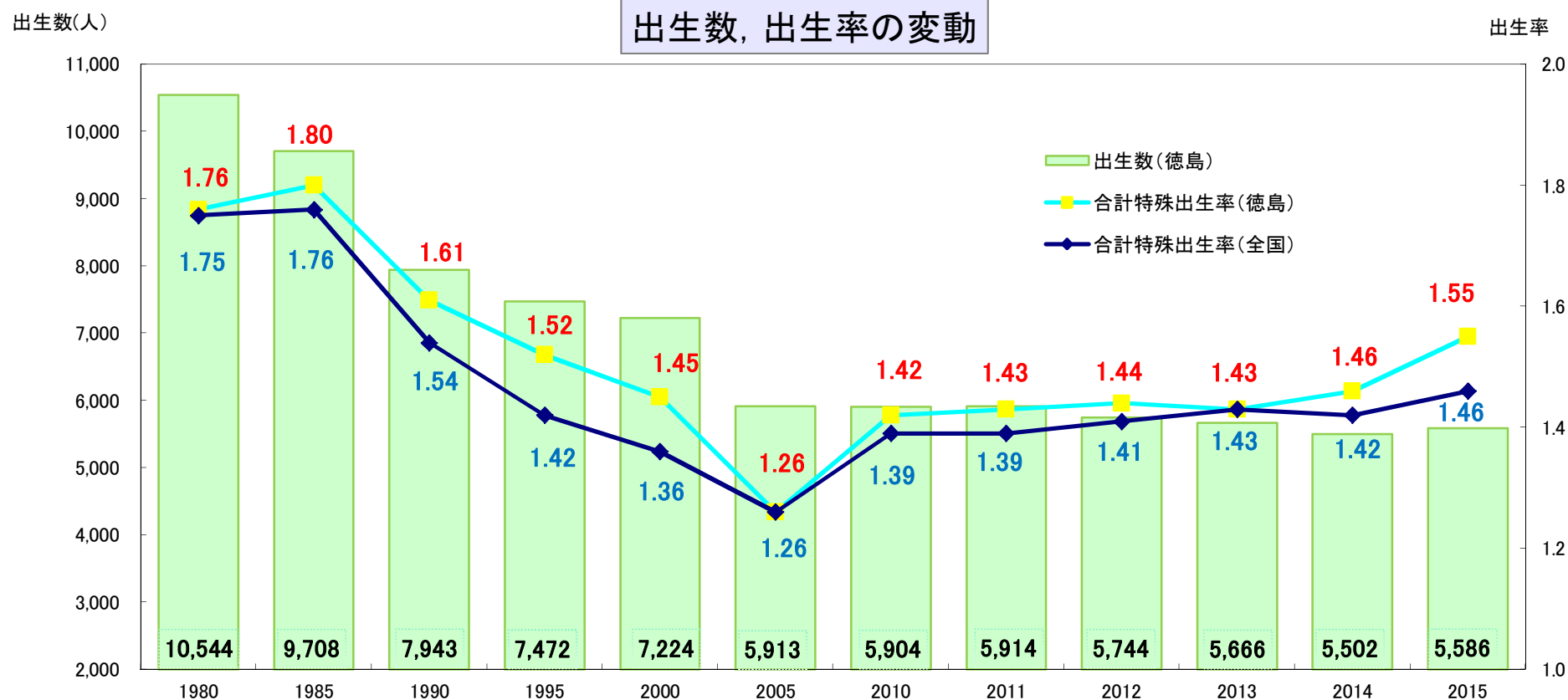
3 少子化の現状

依然として進行する少子化

● 2015年の本県の出生数(5,586人)は、前年と比較して84人増加している。

● 合計特殊出生率は、前年より0.09ポイント上昇し、1.55となった。

※ 合計特殊出生率 15歳から49歳までの女性の年齢別の出生率を合計したもので、1人の女性が一生の間に生む子どもの数を推計したものの。

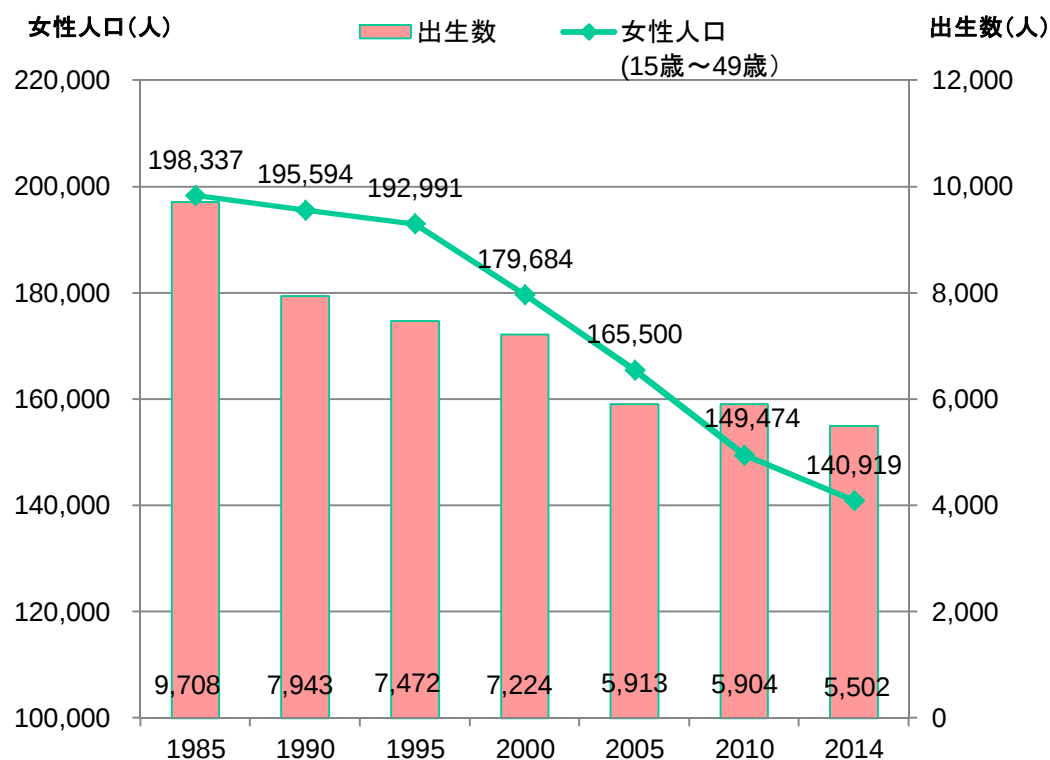


出典: 厚生労働省「人口動態統計」

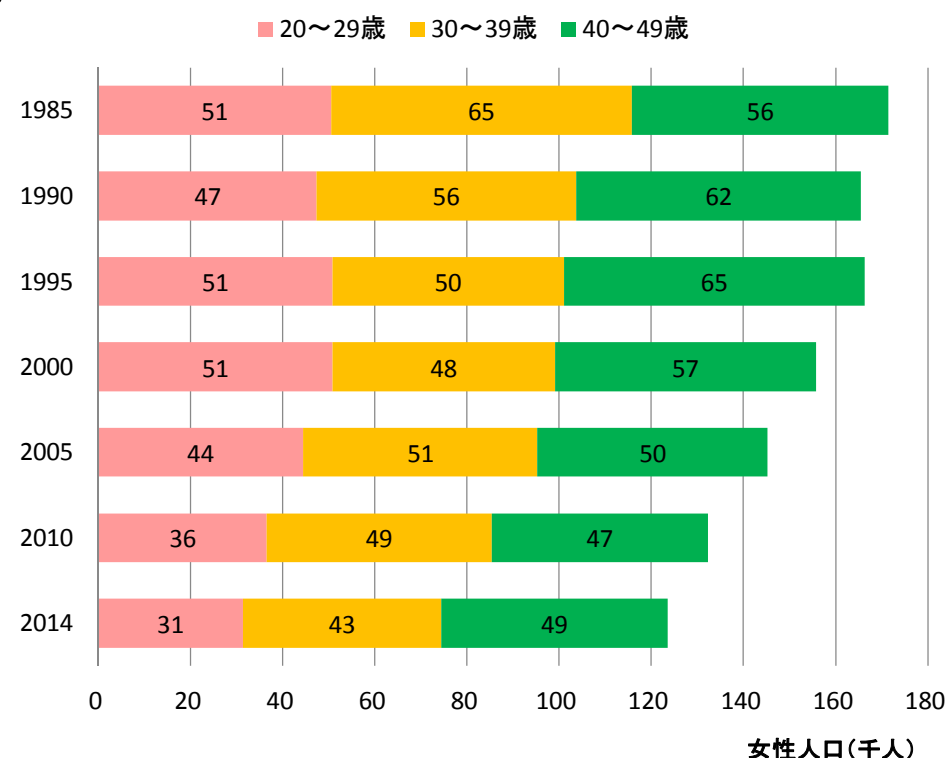
4 少子化の原因(1)

- 本県の女性人口(15歳～49歳)は、1985年と比較して▲5万5千人減少している。
- 女性人口を年齢年代別で見ると、20代は、2000年の5万1千人を境に急速に減少し、2014年では3万1千人と▲2万人減少している。30代でも減少傾向にあり、2000年と2014年を比較すると▲5千人の減少となっている。また、40代でも、2000年と2014年を比較すると▲8千人減少しているものの、2010年と比べると微増となっている。

女性人口と出生数の変動(徳島県)



女性人口の年齢年代別推移(徳島県)

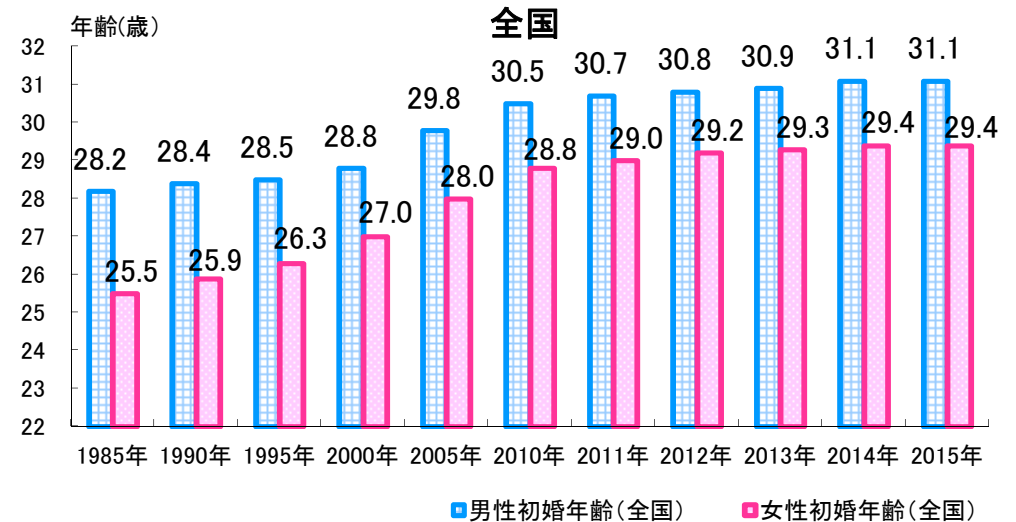
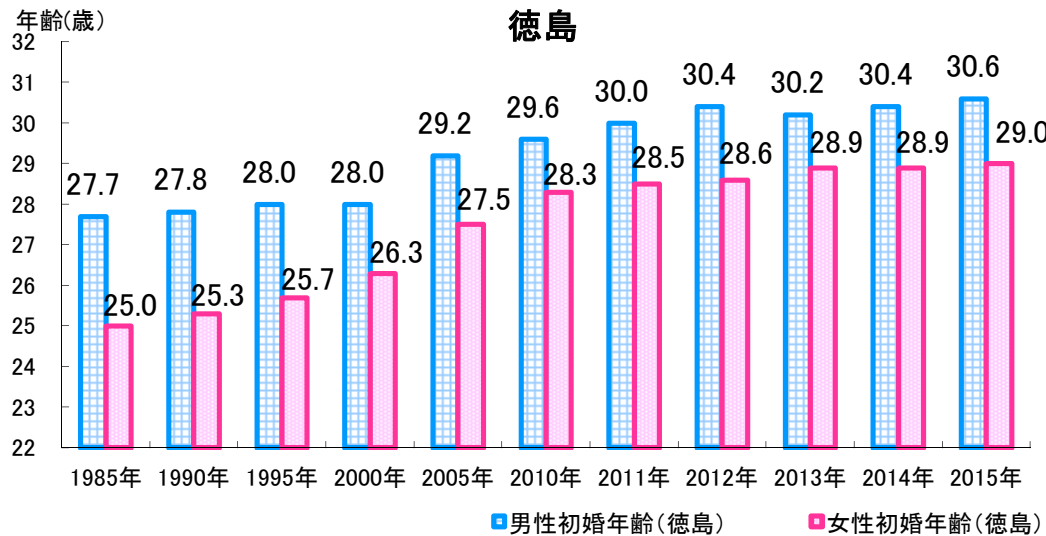


4 少子化の原因(2)

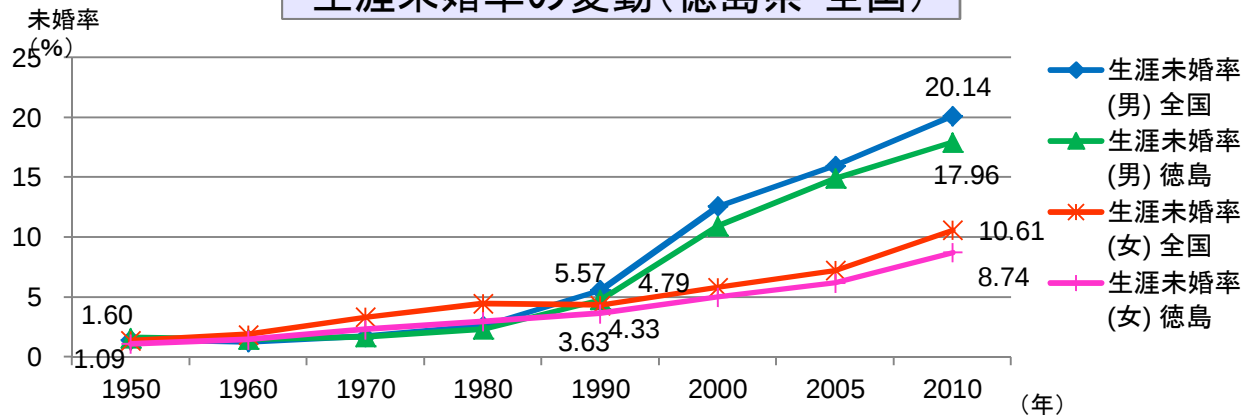
未婚化・晩婚化の進行

- 2015年の本県の平均初婚年齢は、1985年(約30年前)から男性で2.9歳、女性で4.0歳上昇した。全国においても、上昇傾向であるが、2015年は前年と同年齢となった。
- 生涯未婚率は、1990年を境に、大幅な上昇を示しており、急速に未婚化が進行している。
1990年(徳島 男性4.79%, 女性3.63%)(全国 男性5.57%, 女性4.33%)
2010年(徳島 男性17.96%, 女性8.74%)(全国 男性20.14%, 女性10.61%)

初婚年齢の変動(徳島県・全国)



生涯未婚率の変動(徳島県・全国)



※生涯未婚率
「45～49歳」と「50～54歳」の
未婚率の平均値から「50歳時」
の未婚率(結婚したことがない人
の割合)を算出した統計指標

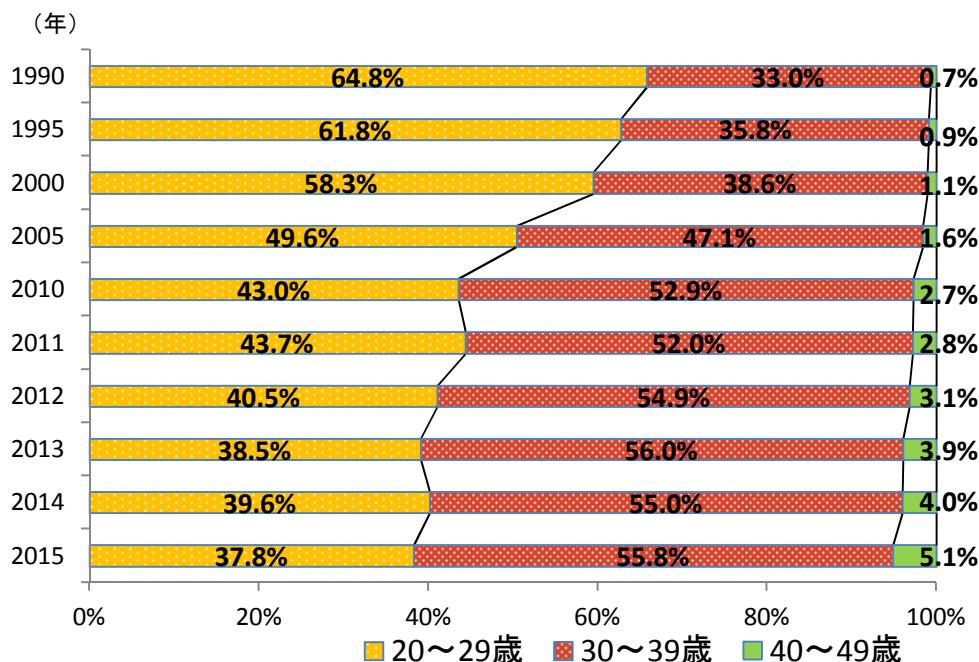
出典:厚生労働省「人口動態統計」
総務省「国勢調査」

4 少子化の原因(3)

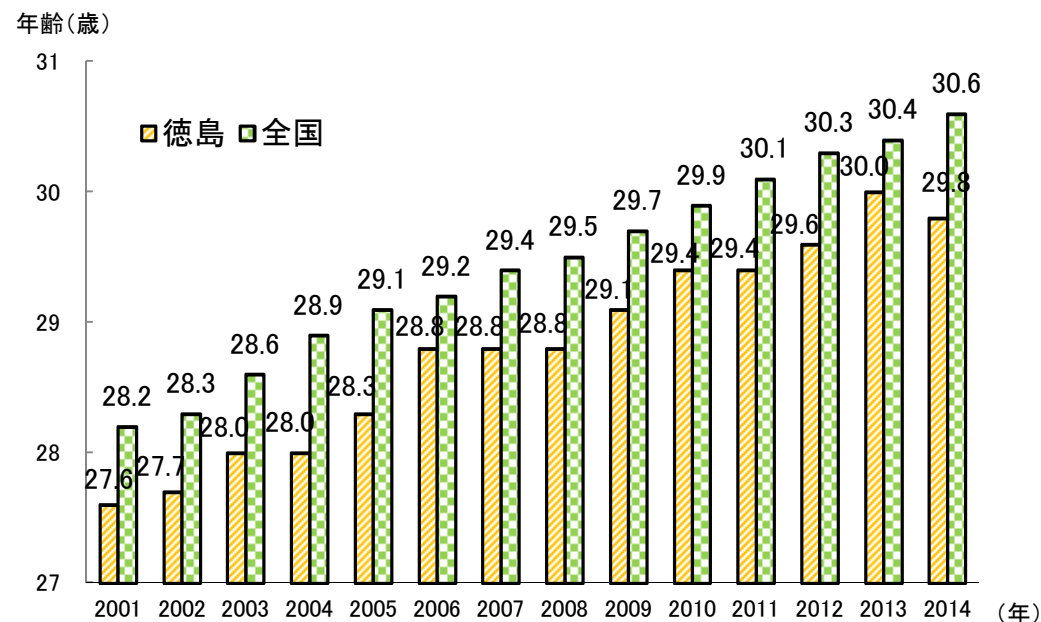
晩産化の進行

- 母親の年代別の出生数の割合は、1990年では、20代で64.8%と、過半数を占めていたが、2015年では、30代で55.8%と過半数を占めるようになり、また、1990年では1%に満たなかった40代での出生数の割合は、2015年では、5.1%となっており、晩産化が進行している。
- 第1子を出産したときの母親の平均年齢は、2001年と2014年で比較すると、全国では、28.2歳、30.6歳と2.2歳高くなっており、徳島県では27.6歳、29.8歳と2.2歳高くなっている。

年代別の出生数の割合(徳島県)



第1子出生時の母親の平均年齢(徳島・全国)

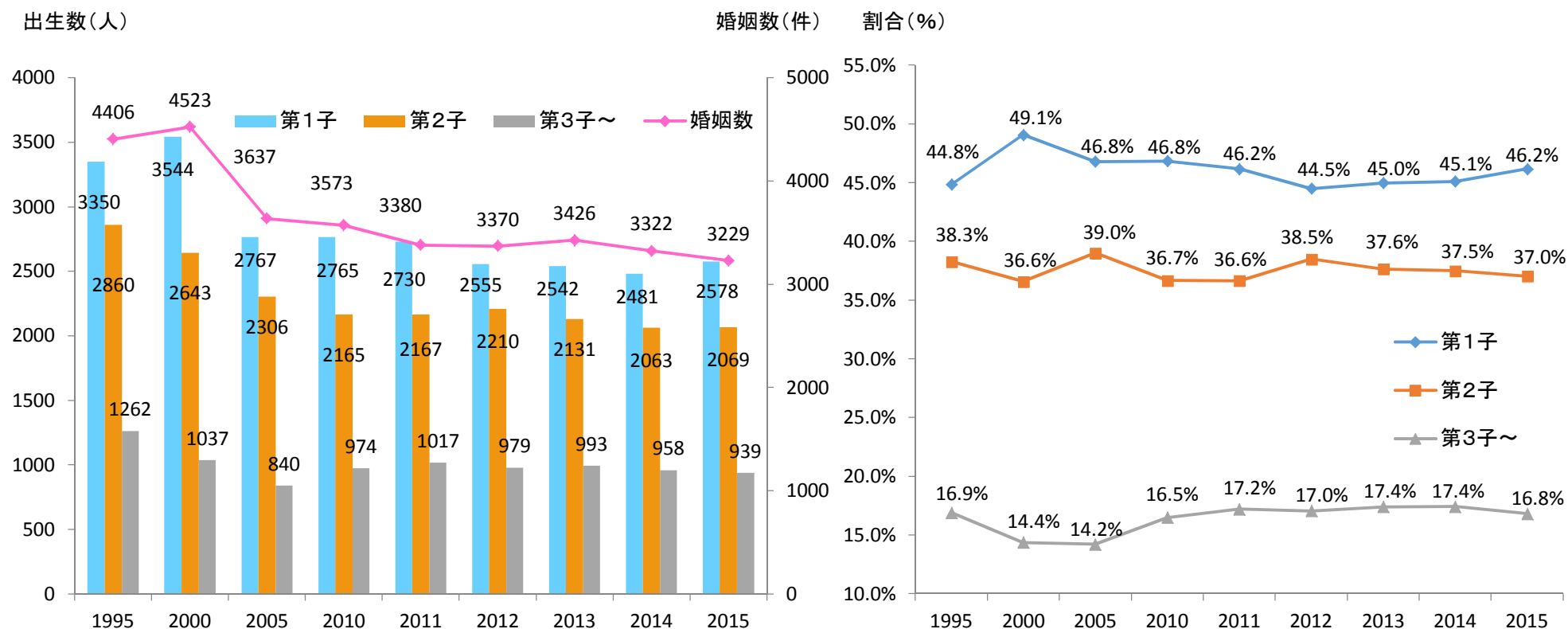


5 その他(1)

- 2015年の出生順位別の出生数は、前年に比べ、第1子が97人(3.9%)、第2子は6人(0.6%)増加、第3子以降は19人(2.0%)減少した。
- 出生順位別の出生割合は、平成24年以降、第1子の割合はわずかながら増えてきているが、第2子は減少傾向にある。

出生順位別の出生数の推移(徳島県)

出生順位別の出生割合の推移(徳島県)

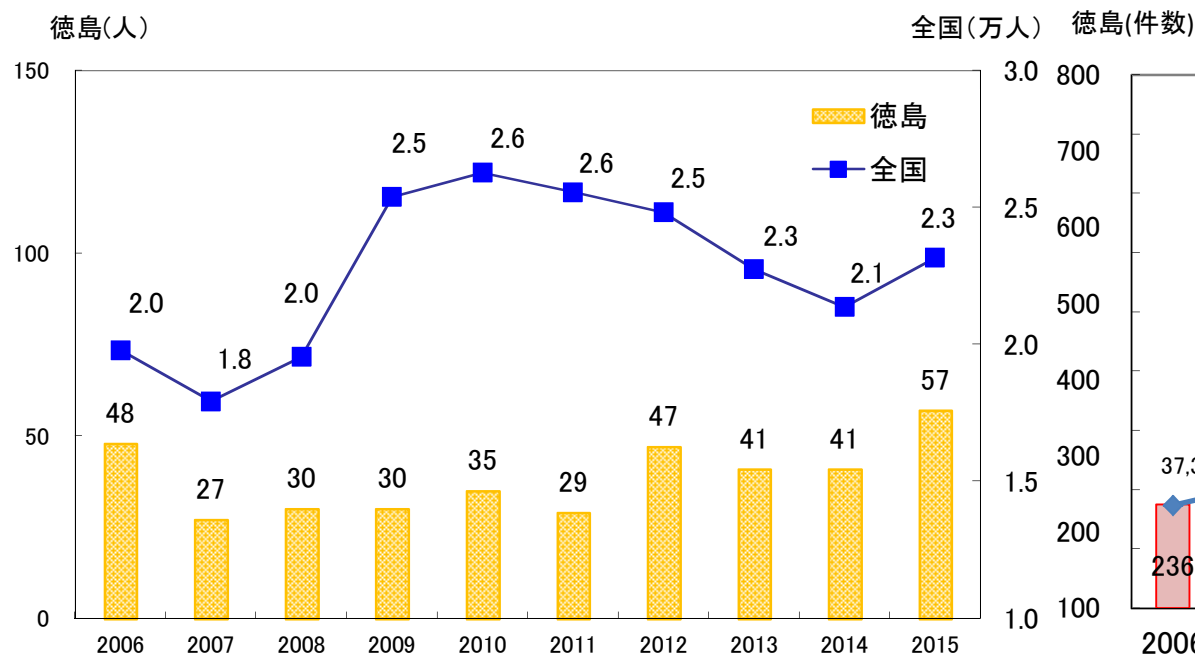


出典:厚生労働省「人口動態統計」

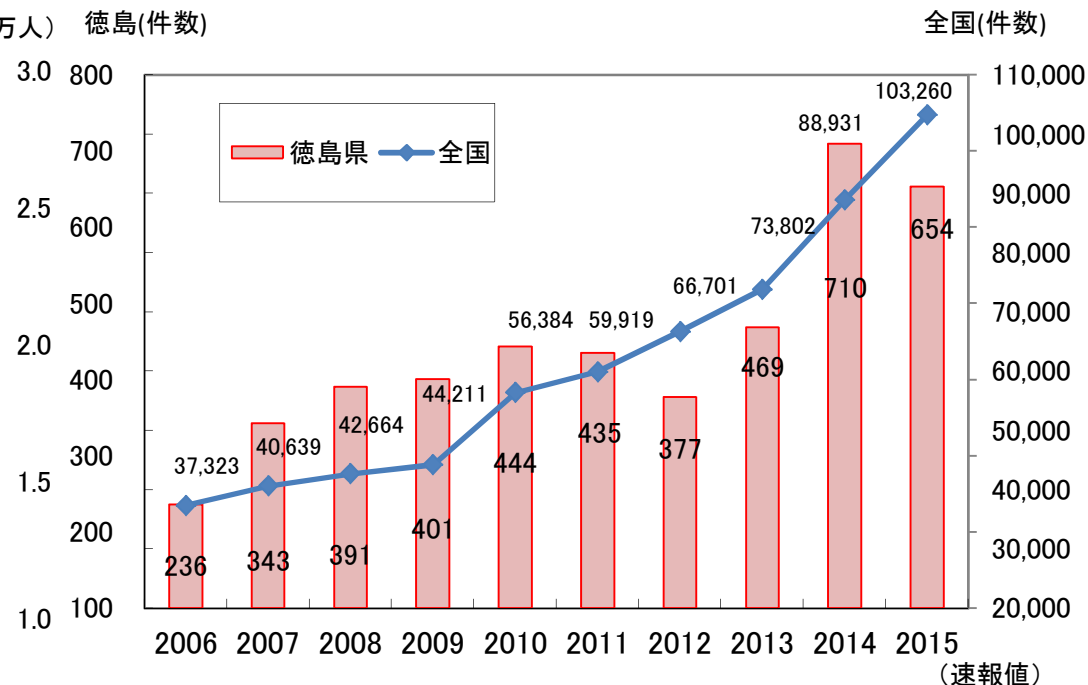
5 その他(2)

- 保育所等待機児童数は、2015年(4月1日時点)では、全国で約2万3千人で、同時期において5年ぶりに増加に転じた。本県においても、1市3町で57人となり、前年に比べ16人の増加となった。
- 児童虐待相談対応件数は毎年増加しており、全国の2015年は103,260件であり、過去最多となった。本県においては、654件となり、前年に比べ減少したものの高い水準で推移している。

保育所等待機児童数の推移(徳島県・全国)



児童虐待相談対応件数の推移(徳島県・全国)



出典:厚生労働省調査資料